

SYMETRIC



GENECODE

ユーザマニュアル

---

ジーンコード 3 移行マニュアル

第 2 版

最終更新日 2020/8/27

## 目次

第 1 章	はじめに.....	4
第 2 章	製品パッケージ.....	5
2-1	Apache モジュールの更新.....	5
2-2	ライブラリパッケージの更新.....	6
2-3	システムスクリプトの更新.....	6
第 3 章	設定ファイル.....	7
3-1	Apache 設定ファイルの更新.....	7
(1)	JavaScript 変換モジュール用の設定.....	7
(2)	互換性保持用ディレクティブの追加.....	8
(3)	ジーンコード 1 固有設定の削除.....	10
3-2	ジーンコード設定ファイルの更新.....	10
3-3	ライセンスファイルの更新.....	10
第 4 章	各種ディレクトリ.....	11
4-1	JavaScript 変換モジュール用ディレクトリの作成.....	11
第 5 章	ImageMagick.....	12
5-1	ImageMagick の更新.....	12
(1)	バージョンアップ方法 (OS 提供パッケージ).....	12
(2)	バージョンアップ方法 (ジーンコード同梱 RPM).....	12

**改訂履歴**

版数	発行日	改訂内容
第 1 版	2019 年 7 月 3 日	・初版発行
第 2 版	2020 年 8 月 27 日	・GCHtmlTrimWhitespace

## 第1章 はじめに

---

本書は、ジーンコード 1 系及びジーンコード 2 系を利用していたユーザーがジーンコード 3 へ移行するための移行ガイドです。本書ではジーンコード 3 へ移行する際に必要な環境・設定の変更について解説します。

- ※ 文中には、Apache の設定に係わる記載がありますが、こちらについての詳細は、別紙「Apache 設定リファレンス」で解説されていますので、そちらを参照ください。
- ※ 全ての設定例はジーンコードのデフォルトの設定値に基づいています。インストールディレクトリや設定ファイルパスを変更した場合は、お使いの環境にあった値に変えてください。
- ※ 作業は Apache を停止し、root で行ってください。
- ※ ジーンコード 1.3.0 以前のバージョンをご利用の場合は、下記マニュアルに記載の作業を事前に実施してください。

➤ 1.4 移行マニュアル

[http://developer.genecode.jp/manuals/gcruntime/1.4.0/gc\\_update\\_1\\_4.pdf](http://developer.genecode.jp/manuals/gcruntime/1.4.0/gc_update_1_4.pdf)

## 第2章 製品パッケージ

---

### 2-1 Apache モジュールの更新

---

runtime パッケージ内の `product/apache/modules/<APACHE バージョン>` ディレクトリにある `so` ファイルを `/etc/httpd/modules` ディレクトリにコピーします。ジーンコード 3 では以下 4 種類のモジュールが存在します。

- `mod_gc_css.so` ... スタイルシート変換モジュール
- `mod_gc_html.so` ... 言語変換モジュール
- `mod_gc_img.so` ... 画像変換モジュール
- `mod_gc_js.so` ... JavaScript 変換モジュール

※Apache のバージョンを取り違えにご注意ください。

※Red Hat Enterprise Linux 7/CentOS 7 以降をご利用の場合は Apache 2.4 用のパッケージを使用します。Red Hat Enterprise Linux 6/CentOS 6 以下をご利用の場合は Apache 2.2 用のパッケージを使用します。

## 2-2 ライブラリパッケージの更新

---

1. library パッケージ内の appjs/gcutils.js ファイルを /home/genecode/appjs/ 以下にコピーします。  

```
$ cp appjs/gcutils.js /home/genecode/appjs/
```
2. library パッケージ内の gcparts\_server ディレクトリ内にある tgz ファイルを /home/genecode/appjs/gcparts/ に展開します。  
展開例:  

```
$ find gcparts_server -name "*.tgz" -exec tar -C /home/genecode/appjs/gcparts -zxvf {} \;
```
3. library パッケージ内の template ディレクトリ内にある gcparts ディレクトリを /home/genecode/template/ 以下にコピーします。  

```
$ cp -R template/gcparts/ /home/genecode/template/
```
4. library パッケージ内の css ディレクトリを/home/genecode/template/以下にコピーします  

```
$ cp -R template/css/ /home/genecode/template/
```

※上記の操作は genecode ユーザーで行います。

※ランタイムパッケージのみ更新し、現在ご利用のライブラリパッケージを使用し続けることも可能です。  
変換結果の互換性を重視する場合は当セクションの作業は必要ありません。

## 2-3 システムスクリプトの更新

---

runtime パッケージ内の product/var/genecode/sysjs ディレクトリにあるファイルを /var/genecode/sysjs ディレクトリにコピーします。出荷時の状態から設定を追加・変更している場合は、変更内容を適用してからコピーします。

## 第3章 設定ファイル

### 3-1 Apache 設定ファイルの更新

#### (1) JavaScript 変換モジュール用の設定

ジーンコード 2 で新たに追加された JavaScript 変換モジュール用の設定を追記します。

※ジーンコード 1 からジーンコード 3 に移行する場合のみ当セクションの対応が必要です。ジーンコード 2 をご利用のお客様は JavaScript 変換モジュール用の設定が既に記述されているため、当セクションの対応は必要ありません。

※JavaScript 変換モジュール用の設定は任意の設定項目になります。ジーンコードの動作に必須のモジュールではないので、互換性を重視する場合は、当セクションの対応は必要ありません。

以下の設定を httpd-genecode.conf の最終行に追加します。

```
LoadModule gc_js_module modules/mod_gc_js.so
<IfModule gc_js_module>
    GCJsLicenseFile      /var/genecode/sysconf/gc.license
    GCJsWorkDirectory    /var/genecode/work
    GCJsTempDirectory    /var/genecode/temp
    GCJsCacheDirectory   /var/genecode/cache
</IfModule>
```

以下の設定を httpd-genecode-vhost.conf の最終行に追記します。

```
#--- virtual host level setting ---
<IfModule gc_js_module>
    GCJsConfigDirectory  /home/genecode/conf/js

    #--- location level setting ---
    <Location ~ "¥js$" >
        GCJsEngine On
    </Location>
</IfModule>
```

---

## (2) 互換性保持用ディレクティブの追加

---

### GCHtmlLegacyElementReferenceById ディレクティブ

ジーンコード 2.3.0 以降、HTML 要素の取得ロジックが変更されており、ジーンコード 2.3.0 以前のバージョンとの互換性を維持したい場合は、GCHtmlLegacyElementReferenceById ディレクティブを `httpd-genecode.conf` に追加します。

#### 【追加前】

```
<IfModule gc_html_module>
    GCHtmlCacheDirectory /var/genecode/cache
    :
    (中略)
    :
    GCHtmlFirefoxHome /var/genecode/lib/firefox-3.5.19-gc/lib/firefox-3.5.19
</IfModule>
```

#### 【追加後】

```
<IfModule gc_html_module>
    GCHtmlCacheDirectory /var/genecode/cache
    :
    (中略)
    :
    GCHtmlFirefoxHome /var/genecode/lib/firefox-3.5.19-gc/lib/firefox-3.5.19
    GCHtmlLegacyElementReferenceById On
</IfModule>
```



## GCHtmlTrimWhitespace ディレクティブ

ジーンコード 2.1.0 以降、連続するスペースを1つのスペースにまとめないよう変換処理が変更されています。ジーンコード 2.1.0 以前のバージョンとの互換性を維持したい場合は、GCHtmlTrimWhitespace ディレクティブを `httpd-gencode.conf` に追加します。

### 【追加前】

```
<IfModule gc_html_module>
    GCHtmlCacheDirectory /var/genecode/cache
    :
    (中略)
    :
    GCHtmlFirefoxHome /var/genecode/lib/firefox-3.5.19-gc/lib/firefox-3.5.19
</IfModule>
```

### 【追加後】

```
<IfModule gc_html_module>
    GCHtmlCacheDirectory /var/genecode/cache
    :
    (中略)
    :
    GCHtmlFirefoxHome /var/genecode/lib/firefox-3.5.19-gc/lib/firefox-3.5.19
    GCHtmlTrimWhitespace On
</IfModule>
```

---

**(3) ジーンコード 1 固有設定の削除**

---

httpd-gencode-vhost.conf に記載の下記設定は、ジーンコード 1 固有の設定のため、削除します。

※当セクションの作業はステージング版ジーンコードの設定ファイルのみが対象です。

```
#--- development only ---
GCHtmlTemplatePreview      On
<Location /cgi-bin/gencode-upload.cgi>
    GCHtmlEngine Off
    Order Deny,Allow
    Deny from all
    Allow from 127.0.0.1
</Location>
```

---

**3-2 ジーンコード設定ファイルの更新**

---

runtime パッケージ内の product/var/gencode/sysconf ディレクトリにあるファイルを /var/gencode/sysconf ディレクトリにコピーします。出荷時の状態から設定を追加・変更している場合は、変更内容を適用してからコピーします。

---

**3-3 ライセンスファイルの更新**

---

ジーンコード 3 のライセンスファイルを/var/gencode/sysconf ディレクトリに配置します。ジーンコード 2 系をご利用の場合は、現在ご利用のライセンスファイルをそのまま使用できるため、当対応は必要ありません。

## 第4章 各種ディレクトリ

---

### 4-1 JavaScript 変換モジュール用ディレクトリの作成

---

JavaScript 変換モジュールが使用する/home/genecode/conf/js ディレクトリを作成します。

※ジーンコード1 からジーンコード3に移行する場合のみ当セクションの対応が必要です。ジーンコード2をご利用のお客様は当セクションの対応は必要ありません。

## 第5章 ImageMagick

### 5-1 ImageMagick の更新

ジーンコード 3.1.0 以降では、ImageMagick 6.7～6.9 にのみサポートしています。ImageMagick 6.7 未満をご利用の場合は、ImageMagick をバージョンアップしてください。

※ジーンコード 3.1.0 以降のバージョンに移行する場合のみ当セクションの対応が必要です。

#### (1) バージョンアップ方法 (OS 提供パッケージ)

yum コマンドで OS 提供パッケージをバージョンアップします。

```
# yum update ImageMagick
```

#### (2) バージョンアップ方法 (ジーンコード同梱 RPM)

1. ジーンコード同梱の RPM で ImageMagick をインストールした場合は、下記コマンドで ImageMagick をアンインストールします。

```
# rpm -e ImageMagick-6.3.9-10.roundabout.x86_64
```

2. OS 提供パッケージから yum コマンドでインストールします。

```
# yum install ImageMagick
```

※ジーンコード同梱 RPM から ImageMagick をインストールしたかどうかは下記コマンドで確認することができます。

```
# rpm -qa | grep ImageMagick
```

ジーンコード同梱 RPM をインストールしている場合は、パッケージ名に roundabout というキーワードが含まれています。

例: ImageMagick-6.3.9-10.roundabout.x86\_64